



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2022年1月31日

上場会社名 味の素株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2802 URL <https://www.ajinomoto.co.jp/company/>  
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 西井 孝明  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行理事グローバル財務部長 (氏名) 水谷 英一 TEL 03-5250-8111  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		事業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	854,228	7.5	108,414	8.4	118,963	24.0	86,478	26.0	81,539	30.1
2021年3月期第3四半期	794,939	△3.3	99,967	19.9	95,941	97.4	68,655	121.4	62,657	171.1

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	149.58	149.57
2021年3月期第3四半期	114.28	114.23

(注) 当社グループは、IFRSの適用にあたり、投資家、取締役会及び経営会議が各事業の恒常的な業績や将来の見通しを把握すること、取締役会及び経営会議が継続的に事業ポートフォリオを評価することを目的として、「事業利益」という段階利益を導入しております。当該「事業利益」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費」、「研究開発費」及び「一般管理費」を控除し、「持分法による損益」を加えたものであり、「その他の営業収益」及び「その他の営業費用」を含まない段階利益です。

#### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	1,397,452	697,396	647,370	46.3
2021年3月期	1,431,289	667,846	620,257	43.3

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	16.00	—	26.00	42.00
2022年3月期	—	24.00	—		
2022年3月期（予想）				24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		事業利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,148,000	7.1	120,000	6.1	68,000	14.4	125.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社  
除外 1社（社名）味の素アニマル・ニュートリション・ヨーロッパ社

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	549,163,354株	2021年3月期	549,163,354株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	11,050,593株	2021年3月期	663,058株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	545,138,967株	2021年3月期3Q	548,298,345株

（注）期末自己株式数には、当社の役員等を対象とする中期業績連動型株式報酬制度の導入により採用した役員報酬BIP信託が保有する当社株式（2022年3月期3Q 442,900株、2021年3月期 559,200株）が含まれております。また、役員報酬BIP信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P2.「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご参照ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

決算補足説明資料は2022年1月31日（月）に当社ウェブサイトに掲載いたします。

## 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	6
(2) 要約四半期連結損益計算書 .....	8
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(重要な会計方針) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社グループは、IFRSの適用に当たり、投資家、取締役会及び経営会議が各事業の恒常的な業績や将来の見通しを把握すること、取締役会及び経営会議が継続的に事業ポートフォリオを評価することを目的として、「事業利益」という段階利益を導入しております。当該「事業利益」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費」、「研究開発費」及び「一般管理費」を控除し、「持分法による損益」を加えたものであり、「その他の営業収益」及び「その他の営業費用」を含まない段階利益です。

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の売上高は、調味料・食品セグメント及び冷凍食品セグメントにおいて、主に海外における家庭用製品の好調や前年度COVID-19の蔓延で影響を受けた外食・業務用製品の販売が一部復調したことに加え、ヘルスケア等セグメントにおいて、主に電子材料及びバイオファーマサービスの販売好調により大幅な増収となった結果、前年同期を592億円上回る8,542億円（前年同期比107.5%）となりました。事業利益は、調味料・食品セグメント及び冷凍食品セグメントにおいて、原燃料価格等の上昇やマーケティング費用の戦略的活用等の影響を受けたものの、ヘルスケア等セグメントの大幅増収に伴う大幅増益により、前年同期を84億円上回る1,084億円（前年同期比108.4%）となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益は、その他の営業収益で固定資産（遊休資産）の売却益を計上したこと等から、前年同期を188億円上回る815億円（前年同期比130.1%）となりました。

また、通期業績予想に対し、売上高の進捗率は74.4%、事業利益の進捗率は90.3%となりました。事業利益は、調味料・食品セグメントにおいて、販売単価上昇やマーケティング費用の効率的な使用等により、高い進捗となっています。加えて、ヘルスケア等セグメントにおいても電子材料等が好調に推移していることから、全体でも高い進捗となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、事業利益が高い進捗となっていることや、第4四半期連結会計期間においてその他の営業費用の発生を見込んでいることから、進捗率は119.9%となりました。

## セグメント別の概況

セグメント別の業績は次のとおりです。

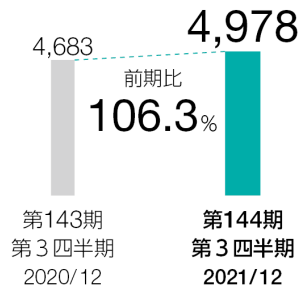
対前年実績	売上高（億円）			事業利益（億円）		
	第144期 第3四半期	前年同期増減	前年同期比	第144期 第3四半期	前年同期増減	前年同期比
調味料・食品	4,978	295	106.3%	741	△27	96.4%
冷凍食品	1,655	158	110.6%	19	△20	49.7%
ヘルスケア等	1,819	144	108.6%	333	149	180.9%
その他	89	△6	93.2%	△10	△16	—
合計	8,542	592	107.5%	1,084	84	108.4%

業績予想に対する進捗	売上高（億円）			事業利益（億円）		
	第144期 第3四半期	通期予想	進捗率	第144期 第3四半期	通期予想	進捗率
調味料・食品	4,978	6,651	74.9%	741	807	91.9%
冷凍食品	1,655	2,170	76.3%	19	23	85.0%
ヘルスケア等	1,819	2,477	73.4%	333	396	84.2%
その他	89	181	49.1%	△10	△26	—
合計	8,542	11,480	74.4%	1,084	1,200	90.3%

## 1) 調味料・食品セグメント

調味料・食品セグメントの売上高は、主に、海外における家庭用製品の好調や前年度COVID-19の蔓延で影響を受けた外食・業務用製品の販売が一部復調したことにより、前年同期を295億円上回る4,978億円（前年同期比106.3%）となりました。事業利益は、海外の増収効果があったものの、原燃料価格等の上昇やマーケティング費用の戦略的活用等の影響により、前年同期を27億円下回る741億円（前年同期比96.4%）となりました。

## 売上高(億円)



## &lt;主要な変動要因&gt;

・調味料は、国内は前年反動影響あるも、海外における家庭用製品の好調や外食向け製品の一部復調等により、全体で増収。

国内は、販売促進活動の効果あるも、前年の内食需要拡大の反動等により、減収。

海外は、内食需要拡大に伴う家庭用製品の販売増や外食向け製品の一部復調、為替影響、単価上昇等により、増収。

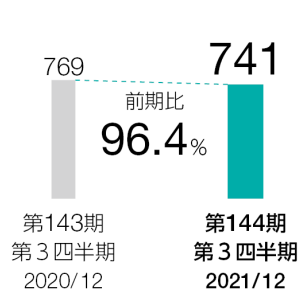
・栄養・加工食品は、海外の即席麺や国内のスープの販売増等により、増収。

国内は、スープの販売増等により、増収。

海外は、即席麺の販売増等により、増収。

・ソリューション&イングリディエンツは、加工用うま味調味料の販売増等により、増収。

## 事業利益(億円)



## &lt;主要な変動要因&gt;

・調味料は、原材料等のコスト増やマーケティング費用の戦略的活用等の影響あるも、海外における増収効果等により、全体で増益。

国内は、原材料等のコスト増やマーケティング費用の戦略的活用等の影響により、減益。

海外は、原材料等のコスト増やマーケティング費用の戦略的活用等の影響あるも、増収効果や為替影響により、増益。

・栄養・加工食品は、海外における増収効果あるも、原材料等のコスト増や国内の新工場立ち上げの影響等により、全体で減益。

国内は、原材料等のコスト増や新工場立ち上げの影響等により、減益。

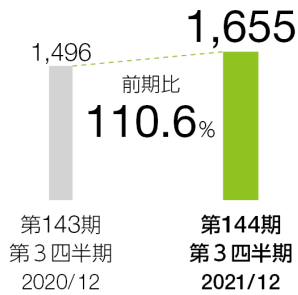
海外は、原材料等のコスト増影響あるも、増収効果等により、増益。

・ソリューション&イングリディエンツは、増収も、加工用うま味調味料が原燃料価格上昇の影響を受け、全体で減益。

## 2) 冷凍食品セグメント

冷凍食品セグメントの売上高は、主に、海外における販売が増加したことにより、前年同期を158億円上回る1,655億円（前年同期比110.6%）となりました。事業利益は、北米における各種コストの上昇や国内におけるマーケティング費用の戦略的活用等により、前年同期を20億円下回る19億円（前年同期比49.7%）となりました。

## 売上高(億円)



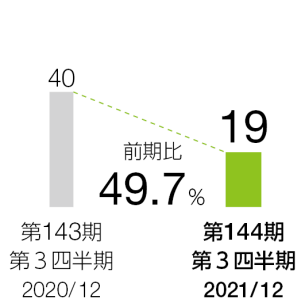
## &lt;主要な変動要因&gt;

・構造改革影響等により国内は減収も、海外は北米・欧州の販売増等により大幅増収となり、全体で増収。

国内は、高付加価値製品の販売増も、構造改革に伴う終売影響等により、減収。

海外は、北米や欧州における堅調な需要継続や、北米の単価上昇等により、大幅増収。

## 事業利益(億円)



## &lt;主要な変動要因&gt;

・増収も、北米のコスト増影響や国内におけるマーケティング費用の戦略的活用等により、全体で大幅減益。

国内は、マーケティング費用の戦略的活用等により、減益。

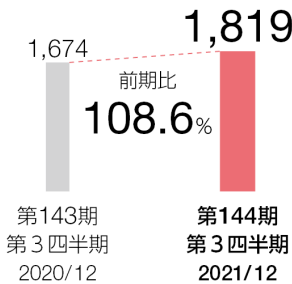
海外は、北米において、単価上昇等により原材料価格、物流費、人件費の上昇影響を打ち返すも、工場コスト増等により、大幅減益。

## 3) ヘルスケア等セグメント

ヘルスケア等セグメントの売上高は、動物栄養は構造改革の影響により減収となったものの、バイオフィーマサービス&イングリディエンツ及びファンクショナルマテリアルズの大幅な増収により、前年同期を144億円上回る1,819億円（前年同期比108.6%）となりました。事業利益は、増収効果により、前年同期を149億円上回る333億円（前年同期比180.9%）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より一部の製品区分の名称及び製品分類を変更しております。詳細については「2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報）」をご参照ください。また、第1四半期連結会計期間より「医薬用・食品用アミノ酸」と「バイオフィーマサービス」をまとめて「バイオフィーマサービス&イングリディエンツ」と表示しております。

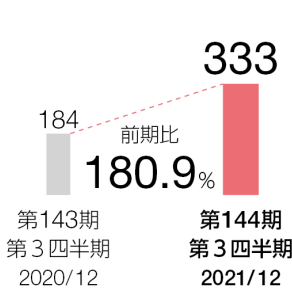
## 売上高(億円)



## &lt;主要な変動要因&gt;

- ・バイオフィーマサービス&イングリディエンツは、バイオフィーマサービス、医薬用・食品用アミノ酸の販売増により、大幅増収。
- ・ファンクショナルマテリアルズは、主に電子材料の販売好調により、大幅増収。
- ・その他は、動物栄養の構造改革影響等により、減収。

## 事業利益(億円)



## &lt;主要な変動要因&gt;

- ・バイオフィーマサービス&イングリディエンツは、大幅増収に伴い大幅増益。
- ・ファンクショナルマテリアルズは、大幅増収に伴い大幅増益。
- ・その他は、動物栄養の構造改革による費用減等により、大幅増益。

## 4) その他

その他の事業の売上高は、前年同期を6億円下回る89億円（前年同期比93.2%）となり、事業利益は、構造改革に伴う損失の計上により、前年同期を16億円下回る10億円の損失となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末の1兆4,312億円に対して338億円減少し、1兆3,974億円となりました。これは主として、自己株式の取得や有利子負債の返済に伴い現金及び現金同等物が減少したことや、動物栄養事業の構造改革に伴い欧州の動物栄養事業を売却したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末の7,634億円に対して633億円減少し、7,000億円となりました。これは主として、有利子負債の返済や仕入債務及びその他の債務の支払により減少したことに加えて、欧州の動物栄養事業を売却したことによるものです。なお、有利子負債残高は、コマーシャル・ペーパーの償還等により、前連結会計年度末に対して257億円減少し、3,810億円となりました。

資本合計は、自己株式の取得が進んだ一方で利益剰余金が増加したこと等により、前連結会計年度末に対して295億円増加しました。資本合計から非支配持分を引いた親会社の所有者に帰属する持分は、6,473億円となり、親会社所有者帰属持分比率は46.3%となりました。

## 2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	181,609	141,063
売上債権及びその他の債権	162,104	170,940
その他の金融資産	12,078	15,463
棚卸資産	188,664	209,505
未収法人所得税	7,459	5,003
その他の流動資産	18,746	18,936
小計	570,662	560,913
売却目的保有に分類される処分グループに係る資産	14,506	—
流動資産合計	585,169	560,913
非流動資産		
有形固定資産	486,443	487,263
無形資産	72,201	70,013
のれん	96,024	98,296
持分法で会計処理される投資	112,246	113,558
長期金融資産	53,576	48,123
繰延税金資産	14,537	7,135
その他の非流動資産	11,090	12,146
非流動資産合計	846,119	836,539
資産合計	1,431,289	1,397,452



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	188,452	175,987
短期借入金	10,820	9,802
コマーシャル・ペーパー	30,000	13,000
1年内返済予定の長期借入金	18,085	17,541
その他の金融負債	11,603	10,670
短期従業員給付	38,288	35,909
引当金	4,343	1,560
未払法人所得税	10,770	14,361
その他の流動負債	11,371	13,261
小計	323,736	292,094
売却目的保有に分類される処分グループに係る負債	12,603	—
流動負債合計	336,339	292,094
非流動負債		
社債	149,608	159,605
長期借入金	141,911	131,688
その他の金融負債	69,381	62,698
長期従業員給付	43,487	41,735
引当金	4,704	4,372
繰延税金負債	16,240	6,902
その他の非流動負債	1,770	958
非流動負債合計	427,103	407,961
負債合計	763,443	700,055
資本		
資本金	79,863	79,863
資本剰余金	—	△1,146
自己株式	△1,464	△35,631
利益剰余金	608,031	662,752
その他の資本の構成要素	△65,454	△58,468
売却目的保有に分類される処分グループに係るその他の資本の構成要素	△718	—
親会社の所有者に帰属する持分	620,257	647,370
非支配持分	47,589	50,026
資本合計	667,846	697,396
負債及び資本合計	1,431,289	1,397,452

(2) 要約四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)
売上高	794,939	854,228
売上原価	△488,226	△526,217
売上総利益	306,712	328,011
持分法による損益	3,232	2,150
販売費	△112,959	△123,107
研究開発費	△18,489	△17,994
一般管理費	△78,528	△80,646
事業利益	99,967	108,414
その他の営業収益	7,043	22,415
その他の営業費用	△8,793	△8,998
営業利益	98,217	121,831
金融収益	2,359	3,985
金融費用	△4,636	△6,853
税引前四半期利益	95,941	118,963
法人所得税	△27,285	△32,484
四半期利益	68,655	86,478
四半期利益の帰属：		
親会社の所有者	62,657	81,539
非支配持分	5,998	4,938
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	114.28	149.58
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	114.23	149.57

(3) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税は、見積年次実効税率を基に算定しております。

(新会計基準の適用の影響)

該当事項はありません。

## (セグメント情報)

## (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、主として製品別のセグメントから構成されており、「調味料・食品」、「冷凍食品」、「ヘルスケア等」の3つを報告セグメントとしております。

いずれの報告セグメントも、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、経営会議が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

各報告セグメントに属する製品の種類は、以下のとおりです。

報告セグメント	製品区分	主要製品
調味料・食品	調味料	うま味調味料「味の素®」、「ほんだし®」、「Cook Do®」、「味の素KKコンソメ」、「ピュアセレクト® マヨネーズ」、「Ros Dee®」（風味調味料）、「Masako®」（風味調味料）、「Aji-ngon®」（風味調味料）、「Sazon®」（風味調味料）、「SAJIKU®」（メニュー用調味料）、「CRISPY FRY®」（メニュー用調味料）等
	栄養・加工食品	「クノール® カップスープ」、「YumYum®」（即席麺）、「Birdy®」（コーヒー飲料）、「Birdy®3in1」（粉末飲料）、「Blendy®」ブランド品（「CAFÉ LATORY®」、スティックコーヒー等）、「MAXIM®」ブランド品、「ちょっと贅沢な珈琲店®」ブランド品、ギフト各種、オフィス飲料（カップ自販機、給茶機）等
	ソリューション&イングリディエンツ	国内外食用・食品加工用うま味調味料「味の素®」、外食用調味料・加工食品、加工用調味料（天然系調味料、酵素製剤「アクティブ®」）、外食嗜好飲料、加工原料、弁当・惣菜、ベーカリー製品、核酸系調味料、甘味料（加工用アスパルテーム、家庭用「パルスweet®」等）等
冷凍食品	冷凍食品	餃子類（「ギョーザ」、「しょうがギョーザ」、POT STICKERS等）、米飯類（「ザ★®チャーハン」、CHICKEN FRIED RICE、YAKITORI CHICKEN FRIED RICE等）、麺類（YAKISOBA、RAMEN等）、デザート類（業務用ケーキ、MACARON等）、焼売類（「ザ★®シュウマイ」等）、鶏肉加工品類（「やわらか若鶏から揚げ」、「ザ★®から揚げ」等）等
ヘルスケア等	医薬用・食品用アミノ酸	医薬用・食品用アミノ酸、培地
	バイオフィーマサービス	医薬品中間体及び原薬、無菌製剤（Fill&Finish）等の受託製造サービス
	ファンクショナルマテリアルズ	電子材料（半導体パッケージ用層間絶縁材料「味の素ビルドアップフィルム®（ABF）」等）、機能性材料（接着剤「プレーンセット®」、磁性材料「AFTINNOVA® Magnetic Film」等）、活性炭、離型紙等
	その他	飼料用アミノ酸（リジン、スレオニン、トリプトファン、バリン、「AjiPro®-L」等）、健康基盤食品（「グリナ®」、「アミノエール®」）、機能性栄養食品（「アミノバイタル®」）、パーソナルケア素材（アミノ酸系マイルド洗浄剤「アミソフト®」、「アミライト®」、アミノ酸系湿潤剤「AJIDEW®」等）、メディカルフード等

なお、第1四半期連結会計期間より、従来ヘルスケア等の医薬用・食品用アミノ酸に含めていたメディカルフード及び、従来ヘルスケア等のバイオフィーマサービスに含めていた一部事業を、ヘルスケア等のその他に含めております。また、従来化成品と表示していた製品区分の名称を、ファンクショナルマテリアルズに変更しております。

## (2) セグメント売上高及び業績

当社グループの報告セグメントによる売上高及び業績は以下のとおりです。

なお、セグメント間の内部売上高は、主に第三者間取引価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	要約四半期 連結財務諸 表計上額
	調味料・ 食品	冷凍食品	ヘルス ケア等				
売上高							
外部顧客に対する売上高	468,303	149,625	167,433	9,577	794,939	—	794,939
セグメント間の内部売上高	4,798	1,159	4,064	27,231	37,254	△37,254	—
計	473,102	150,785	171,497	36,808	832,193	△37,254	794,939
持分法による損益	1,502	—	108	1,621	3,232	—	3,232
セグメント利益又は損失 (事業利益又は事業損失)	76,914	4,013	18,435	603	99,967	—	99,967
						その他の営業収益	7,043
						その他の営業費用	△8,793
						営業利益	98,217
						金融収益	2,359
						金融費用	△4,636
						税引前四半期利益	95,941

(注) 1. 「その他」には、提携事業及びその他サービス事業が含まれております。

(注) 2. 各報告セグメントに帰属しない全社共通費は、合理的な基準に基づき各報告セグメントに配分しております。  
全社共通費は、主に親会社の管理部門にかかる費用です。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	要約四半期 連結財務諸 表計上額
	調味料・ 食品	冷凍食品	ヘルス ケア等				
売上高							
外部顧客に対する売上高	497,875	165,514	181,914	8,924	854,228	—	854,228
セグメント間の内部売上高	4,459	52	3,832	17,427	25,771	△25,771	—
計	502,335	165,566	185,747	26,351	880,000	△25,771	854,228
持分法による損益	1,153	—	△3	1,001	2,150	—	2,150
セグメント利益又は損失 (事業利益又は事業損失)	74,162	1,993	33,353	△1,095	108,414	—	108,414
						その他の営業収益	22,415
						その他の営業費用	△8,998
						営業利益	121,831
						金融収益	3,985
						金融費用	△6,853
						税引前四半期利益	118,963

(注) 1. 「その他」には、提携事業及びその他サービス事業が含まれております。

(注) 2. 各報告セグメントに帰属しない全社共通費は、合理的な基準に基づき各報告セグメントに配分しております。  
全社共通費は、主に親会社の管理部門にかかる費用です。